

岩手の生協の今をお伝える

岩手の生協

VOL.45 2017.12

岩手県生活協同組合連合会

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220-3

☎019-684-2225 / ☎019-684-2227



課題の理解とお互いのとりくみを交流した生協交流集会



憲法9条改憲はゆるさない！平和を守る運動



核兵器廃絶を若い世代に呼びかけたヒバクシャ署名



被災地に寄り添う支援求め今年も福祉灯油実施決定

特集

岩手の生協みんな集まれ！生協間での交流集会開催

～ 県内の生協が使命や役割、今後の可能性や課題の理解をすすめ、
お互いの生協の事業や運動のとりくみを交流 ～

**9条改憲にNO！憲法をいかした政治をもとめる平和のとりくみ
ヒバクシャ署名14万筆突破！県への要請や高校生に呼びかけ**

■会員生協トピックス

- ・岩手大学生協
- ・宮古市職員生協

■岩手県生協連トピックス

- ・県への請願で今年も福祉灯油実施へ
- ・生協役職員向けライフプランセミナー開催
- ・岩手県消費者大会開催

特集

岩手の生協みんな集まれ！生協間での交流集会開催

「県内の生協が使命や役割、今後の可能性や課題の理解をすすめる、お互いの生協の事業や運動のとりくみを交流」

県生協連第8次中期計画のめざすものについて改めて確認し、くらしや地域社会をめぐる問題を学ぶ機会や交流の場として、9月13日に10生協86名の参加で「生協学習交流集会」を開催。社会保障制度の後退が進み、どの世代も負担が重く、格差や貧困がさらに進む中、健康で安心してくらせる地域社会になるにはどうすればいいか、全日本民医連副会長・長瀬文雄氏にお話いただきました。



いのち輝く時代へ

講師…全日本民医連医療機関

連合会 副会長

長瀬 文雄 氏

●戦争は一番の絶対悪

ユニセフの報告では、1,000人のうち5歳の誕生日を迎えることができなかった子どもは、アフガン257人、アメリカ8人、日本4人。この違いの一番大きな原因は戦争。戦争で貧困、きれいな水が飲めない、ワクチンが打てない、栄養が足りない等の状況が起こる。アメリカは世界トップの医療水準だが、日本の倍。これは社会保障が非常に不備で、国民の6人に1人が公的な医療保険に入っていないからです。

私たちがいのちを守る上で、一番取り除かなければいけないのは戦争です。戦争とは、人が殺し・

殺されること、いのちをないがしろにすること。だから、私たちが一番しなければいけないのは、戦争や戦争につながることをやめさせること。しかし、若者にインタビューすると、8月6日・9日・15日に何があったか、半分以上が答えられない。だからこそ戦争とは何か、想像力を持つことが大事です。

戦争は人権が著しく制限され、医療や社会保障もないがしろにされる。1944年のデータでは、日本の国家予算に占める軍事費の割合は85.3%。これでは医療費や教育に使えるわけがない。これが戦争。だから、「平和でなければ生存権も守れない、戦争してはいけない」というのが日本国憲法全体につながっている。戦後すぐの平均寿命は、男性平均23・7歳、女性34・4歳。戦禍で亡くなった方も多いが、栄養失調や結核等病

気で亡くなった方も多く、織田信長の時代の人生50年よりも低い。愚かな戦争から守るか守らないか、今はこういう時代です。

●社会的弱者の扱い方で国の水準がわかる

これは持論だが、子ども・障害者・お年寄りなど社会的弱者といわれる方が社会からどう扱われているかみれば、その国の水準・程度がわかる。日本はどうか。保育園待機児童あり、看護師不足のために赤ちゃんが哺乳瓶を一人飲みしている現状あり、高齢者への対応も疎か。これから介護保険の適用範囲は限られ、保険料を払っても使えない。まさに姥捨て山。厚生労働省OBも、「今やっていることは介護詐欺だ」と言っている。

また、ある市の福祉事務所職員が「保護なめんな」と書かれたジャンパーを着て、生活保護世帯を訪

問していた。心が荒んだ上から目線が今の現実。一言でいえば自己責任社会。自分で何とかしろ、というのは本来の社会保障とは逆。ほかにも、東京電力福島第一原発事故があった地域は、放射能が大阪の30倍〜40倍の濃度だが、そこに帰れと無茶苦茶なことを言っている。人間を大事にしない社会は、程度が低い国だと思う。

赤坂の料亭で歴代首相が飲んでる写真が公表されたが、その日北朝鮮からミサイルが飛ばされた。地下鉄や新幹線を止め、Jアラートも鳴らす、本人らは全く危機感などない。本当に北朝鮮が怖ければ、原発を止め、日本にある米軍基地を閉鎖したらどうかと思う。全くおかしい社会です。

●いのちが主人公のキューバの政策

没後50年になるキューバの革命家チェ・ゲバラの娘が話す、父の

言葉です。「世界のどこかで誰かがこうむっている不正を、心の底から深く悲しむことのできる人間になりなさい。それこそが、人間としての一番美しい資質なのだから。ただ一人の人間の命は、この地球上で一番豊かな人間の全財産よりも100万倍も価値がある」。キューバ建国の精神です。

キューバ憲法50条では医療費、51条では教育費一切無料を宣言している。キューバは貧しく年収が低い、健康寿命はアメリカより高い。それは、1,000人に1人の割合でクリニックが設置され、全員の健康カルテや健康管理台帳があるから。13種のワクチン接種が無料で、乳幼児死亡率も低い。年金は老人施設では7割が施設代にとられるが、3割は好きに使える。

障害児が生まれても、国が精神的にも経済的にも一生守る。障害児教育でも、その子の希望や個性を活かし生きる力を与えている。キューバは社会保障・いのちを大事にする政治を実現させたいと考え、原発も核兵器も持つつもりは毛頭ない。国民があちこちで「椰子より高く正義を掲げよ」と言うが、この理想を見習うことで、いのちを主人公にした日本につくり

かえることができると考えました。

私はキューバで、「日本は世界第3位の経済大国だが、そのお金は誰のために使うのか。いのちを大事にする社会をつくれれば、明日からでも日本はすばらしくなる」と言われました。

中央大学宮本太郎氏が提言する「北欧型・福祉社会」は、人生は働くことを基本にしながら、退職、家族、教育、障害等人生のリスクを、社会の責任で乗り越えようとする社会。

それに対し日本やアメリカは、個人の責任で乗り越えなきゃいけない社会。日本では2、3割負担で問題になっているが、世界全体の流れは医療費窓口負担無料。いのちが主人公となる社会です。

●憲法をいかし

連帯・協同をすすめる

では、日本でどんなことができるのか。それは、「国民が主人公で、戦争は絶対しない、どのいのちも大事」と訴える、憲法をいやすこと。そのモデルは岩手にあった。今から55年前の旧沢内村地域包括医療実施計画。だれでも・どこでも・いつでも、健やかに生まれ・育ち・老いる。それを見本に、

全国で老人医療無料制度等ができた、まさに日本のルーツ。これは、すばらしい首長が登場してできたというより、市民運動の成果です。小児マヒのワクチン輸入も、日本中で運動をして勝ち取った。どんなにいい制度でも、運動なくしてはできません。

そして、母子家庭であろうが、ひとりぐらしの老人であろうが、誰一人置き去りにしない、無差別な平等が必要です。ひとり一人が主人公で、生きることを支える連帯。私たち生協運動は、「いのちの主人公を取り戻す。そのために連帯しあう」こと。「誰もが安心できる街をつくる」こと。いろいろな組織や団体に関わることがカギ。地域で孤立した人がたくさんいるが、大工、運転手、教員だった人などの豊かなスキルをいかせば、誰もが安心できる街づくりが可能です。子ども食堂も貧困対策だけではなく、地域のコミュニティ、居場所づくりとしてすすめる。連帯や絆がある地域は住民が健康だ、というデータもある。

地域での連帯・協同をすすめる方法は山ほどある。辺野古新基地反対のテントにも、「勝つ方法はあきらめないこと」と書いてある。ないものはつくればいい、困難は



お互いの生協をより詳しく知るために活動報告や展示発表を実施。

一緒に解決すればいい、不自由な世の中を変えればいい。そんな仲間を私たちの事業と運動でどれだけつくっていけるか。「世界全体がしあわせにならないければ個人の幸せはない」という宮澤賢治を生んだ、岩手だったらできる。

ぜひ、生協間の協同、他の団体と協力して、岩手から発信してほしいと思います。

(文責：岩手県生協連)

◆各生協の活動発表やグループ交流が好評

当日は、生活クラブ生協、岩手大学生協・盛岡大学生協、いわて生協の活動発表のほか、各生協のとりくみを紹介する展示コーナーも設けました。



130団体が賛同し、県生協連も幹事団体をつとめる「戦争させない・9条壊すな!岩手の会」では、毎月19日を中心に、幹事団体が担当持ち回りで、毎回100人(200人規模のデモや街頭宣伝を行っています。

9月28日には、突然の衆議院解散に対し、「国民なめんな!疑惑隠し解散へ抗議する緊急集会」を



9条改憲にNO! 憲法をいかにした政治をもとめる平和のとりくみ

緊急集会や街頭宣伝、学習集会を開催

午後は、グループに分かれ、長瀬氏の講演や、各生協の活動発表・展示コーナーについて、感想や自生協で活かせることを意見交流。

参加者からは、「生協間の交流ができてよかったし必要」「若い世代が平和を考える機会があるのはすばらしい」「いろんな生協の方と意見を共有できた。いのちを守る運動と平和は大事」など、他生協の活動やお互いの思いを知る貴重な機会となりました。



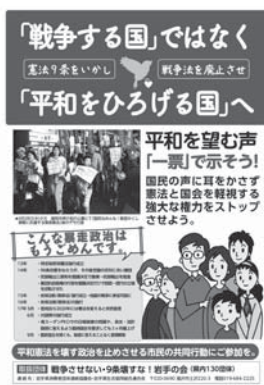
10生協の組合員・役員が、お互いの思いを交流。

市役所生協交流会も開催

改めて「組合員のニーズと願い」にこたえる生協の事業経営・運営について考え合おうと、7月8日に遠野市で県内4つの市役所生協の交流会を23名で開催。当日は、遠野市役所生協理事長の飛内副市長も参加し、岩手の生協運動の歴史と今後を期待する講演や、復興にむけた取り組みや事業経営の実態を中心に各生協の概況報告を行いました。午後は役員と職員に分かれ、それぞれ今後に向けた交流ができました。



曜日別おすすめ品設定や地元水産物の発送など、実務の工夫も共有できました。



新聞折込や意見広告で9条改憲反対をアピール。

●9条改憲にNO！学習集会開催

全国的には、「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」が9月に結成。来年の通常国会での憲法改正発議を止めさせるため、3,000万署名運動がはじまりました。戦争させない・9条壊すな！岩手の会もそれに賛同し、運動に

参加することを確認。地域9条の会に呼びかけ、署名をスタートしています。

世界の宝である憲法9条の改憲を阻止させる3,000万署名推進のため、11月6日に参加100人で学習集会を開催。全国総がかり行動実行委員会共同代表の高田健氏に、講演いただきました。

高田氏は、「安倍首相は北朝鮮情勢を最大限利用し、解散に打って出た。こちらの選挙準備も整っていないが、立憲野党＋市民の図式は残った。巨大与党にも対抗できる、後に続く柱が見つかった」と評価。

そして、「今やるべきは改憲発議を止めること。2019年夏までに引き延ばすことができれば参院選勝負となり、そこで3分の2を与えなければ安倍さんは改憲できない」と指摘。「改憲がどれだけ大変なものか多くの人が考えるようになれば、簡単に改憲発議ができなくなる。それまでの1年半、世論を盛り上げよう」と、3,000万筆目標の「安倍9条改憲NO！憲法を生かす全国統一署名」をそのツールとして使い、集めていこうと訴えました。

参加者からは、「9条加憲案で、自衛隊が普通の軍隊となり、平和

憲法が壊されてしまう。危険性をもっとみんなに知ってもらいたい」「安倍首相がやろうとしていることが理解できた。改憲反対の声が多いのに、それを無視して進められるのが怖い。声をあげないといけない」「戦争は絶対ダメ！改憲を許さない世論づくりと、そのための3,000万署名をがんばりたい」など、感想や決意が寄せられました。



「今こそ市民運動を」と話す、高田氏。



●市民アクション岩手版結成に向け

12月10日には、岩手版ネットワークの結成会を開催。来年の通常国会に明文改憲発議をさせない、の

一点で運動をすすめていきます。これまでの協力してきた団体以外にも声をかけ、全国の仲間とともに、3,000万署名を成功させていきたいと考えています。

●4,300人が鑑賞。

映画「母」上映運動

県生協連は、映画「母」上映をひろめる岩手の事務局として、県内上映を推進しました。

現在版治安維持法とも呼ばれる共謀罪の怖さを知る上でも、また平和への思いを訴える意味でも鑑賞を広げようと、各地域で実行委員会が立ちあがり、各地域で集めた賛同人を中心に、普及がすすめられました。

これまでに、6月からの4か月間で、北上市、釜石市、花巻市東和、盛岡市、奥州市、一関市で上映。いずれも目標を上回る入場で成功させることができました。普及にご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。



ヒバクシヤ国際署名が14万筆突破!

県・市町村への要請や高校生に呼びかけ

●全国に先駆け県議会要請、採択へ

7月7日、国連で「核兵器禁止条約」が採択されました。「岩手の会」では、首長や議会への働きかけ（現在、県知事+33首長中26首長が署名）や、県・市町村議会への「日本政府が速やかに核兵器禁止条約に署名し、国会が批准することを求める」請願（現在、33市町村中15市町村で採択）を実施しました。県議会は10月10日に採

択。県議会での採択は、全国に先駆けた快挙です。

●店舗や高校前などで署名活動

各会員生協では、さまざまな形で署名運動を推進。いわて生協は、店舗内に署名コーナーを設置。組合員組織や常勤者それぞれで目標を持ち、組合員活動の場や、職場・取引先への呼びかけなどを実施し、9万筆以上を集めました。また、学校生協（地区総会での呼びかけ）、医療生協（職員や組合員、病院内での呼びかけ）などで取り組んでいます。

「岩手の会」主催の街頭署名活動は、毎月15日を中心に実施しています。9月21日は、世界的に呼びかけられた「ピースウエーブ」のとりくみの一環で、これからの若い世代に訴えようと高校前で実施。帰宅や信号待ちの学生に署名を呼びかけました。学校も協力的で、高校生の関心も高く、署名してくれた生徒からは、「こういう活動に参加したい」「被爆者の話を聞きたい」「北朝鮮問題などは核兵器がなくなれば不安もなくな



県生協連も幹事団体をつとめる「ヒバクシヤ国際署名をすすめる岩手の会」（賛同66団体）は、2020年までに50万筆を目標に、毎月の街頭署名や県や市町村への要請行動などを行い、署名運動を広げています。この間の取り組みの成果で、10月末までで生協関係の11万筆を含み、署名は14万筆を突破、目標の25%を超えました。



県議会議長に請願書を提出。



信号待ちの生徒さんにも声がけ。



「核兵器をなくしたいか」というシールアンケートも実施。

る」などの声があり、インパクトのある活動になりました。

今後は、賛同団体に呼びかけ、「代表者会議」を12月に開催。また、引き続き首長や議会へ請願、地域に浸透し住民が主体的にすすめていくような地域組織づくりを行い、署名を広げていきます。

岩手大学生生活協同組合

6月末、食堂や購買前に笹が出現。この笹は、岩手大学生協学生委員会の活動の一つである七夕企画の一環として、組合員の願い事が書かれたカラフルな短冊で、みるみるうちに飾り付けられていきました。多くの組合員に季節感を感じてもらったこと、企画をきっかけとして食堂や購買へ気軽に来てもらうことを目的に開催し、七夕当日の7月7日、縁日、屋台の他、ステージイベントを行いました。

縁日は、生協店舗の400円以上のレシートで参加でき、輪投げ、当たり付きのヨーヨー釣りを学生委員が中心となって運営。以前からチラシやポスターで宣伝活動は行っていました。これらのゲームをやりたいたと購買に買い物に向かう参加者も多く、購買は賑わっていたことでしょう。屋台は、焼きそばやキュウリの一本漬け、かき氷といった夏祭りら

しいものが並び、食堂の職員が調理を、学生委員が販売を担当。屋台の商品は、普段の食堂や購買では味わうことが出来ないためか大人気で、列が出来る時間帯もありました。ステージイベントでは、ラムネ早飲み大会、生協〇×クイズ、ビンゴ大会を行い、豪華賞品獲得に向けてたくさん

の参加者が集まりました。



天候にも恵まれ、運営側も楽しみながら組合員の充実したひとときを作ることができました。

宮古市職員生活協同組合

宮古市職員生活協同組合では、組合員のニーズに応えた商品構成に努力し、より組合員に便利な店舗づくりなど供給事業の充実、自動販売機の計画的な更新や配置などサービス事業の向上、安くておいしい食事の提供や衛生管理など食堂事業の充実などを今年度の目標に掲げ、事業をすすめてきました。

地元のものを大切に事業を行っています。自然環境の



変化による、さんま・鮭・あわびの不良、お盆用・お彼岸用の花の早咲きなどがあり、季節にあつたとりくみが非常に難しくなっています。厳しい状況ではありますが、これからも整理・整頓をこころがけ、お客さまの声に耳を傾け、どんなことでも柔軟に対応できるように生協にしていきたいと思っています。



復興商品をアピールするため、コーナーを設置。

■福祉灯油を求め県議会請願 今年も福祉灯油実施決定

岩手県生協連では、灯油の適正価格や安定供給を求める運動とともに、岩手県民にとって冬場の灯油代の負担が大きいことから、経済的に厳しい世帯への灯油代の支援、いわゆる「福祉灯油」の実施を求め、行政や議会への働きかけを長年続けています。

今年も、福祉灯油継続の県への要請や県議会への請願を行い、被災地に最後まで寄り添う支援が必要だと訴えました。その思いが伝わり、7年連続での福祉灯油実施が決定。県は、12月県議会で5,000万円の予算案を盛り込むことを決めました。今年度も、昨年度並みの沿岸市町村約1万7千世帯に助成の予定です。今期の灯油も値上がり傾向に



9月19日に、津軽石県環境生活部長へ要請。

あり、生活再建途上にある被災者の負担軽減につながります。今後、被災地や生活弱者に寄り添う支援の継続を求めています。

■生活設計は若いうちから ライフプランセミナー開催



グループごとにライフプランの改善を話し合い、発表。



定年後を見通し、充実した人生を送るために必要なライフプランを早い段階で考えていくきっかけづくりをめざし、岩手県生協連では、30代後半から40代中心に、毎年いわて生協と共催で役職員向けのセミナーを開催しています。今年度は、10月17日に28人の参

加で開催。講師からライフプランの作成や見直しの必要性を学習後、ある家族のライフプランを例にどのくらい改善ができるか、グループワークを実施。参加者からは「これからの人生設計をする上で大きく役立つ内容だった」「グループでいろいろな見方、考えを聞くことができてとても勉強になった」などの感想が出され、ライフプランを考える重要性を実感したと好評でした。

■岩手県消費者大会450人参加 金子勝慶応大教授が講演

実行委員会（県生協連含む参加17団体、事務局…岩手県消団連）が主催し、午前に食・憲法・消費者・教育・社会保障の問題について、分科会を開催。午後の全体会は、「未来を取り戻す対抗戦略を」と題し、テレビやラジオでおなじみの慶応義塾大学経済学部教授金子勝さんに講演いただきました。

金子さんは、安倍政権の本当の危険性を鋭く指摘。「今後は、食・農・エネルギー・社会福祉を軸に、経済成長を考えることが重要」と訴えました。参加者からは、「新しい経済をつくるということが実現したらおもしろい。価値観を変え、自分たちで経済を取り戻すと

いう考え方に共感」「将来について考えると暗くなってしまうが、だからこそ有権者が行動しなければと再認識」などの感想が寄せられました。

大会決議・アピールでは、「日本国憲法施行70年の今年、日本の宝平和憲法9条が変えられようとしている。平和な未来を子どもたちに引き継ぐために、9条を守りみんなで学び行動しましょう」と提案。参加者全員の拍手で採択されました。



「ウソや真実を見抜く力が大切」と訴える金子氏

